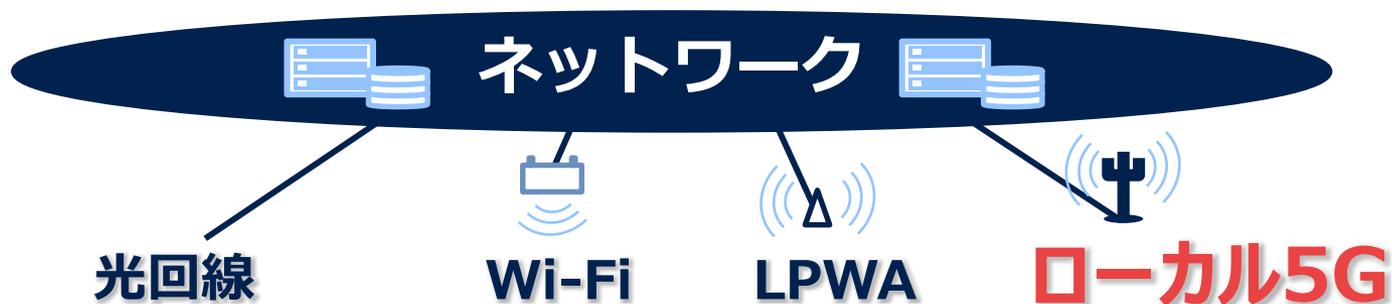


次世代競争ルール検討WG・ グローバル課題検討WG 合同会合 事業者ヒアリング資料

2019年9月11日
日本電信電話株式会社

ローカル5Gの役割

- ローカル5Gを通じて、通信事業者のみならず多様なプレイヤーが自由かつ柔軟にイノベーションを促進することにより、他分野での新事業や新サービスの創出に結びつけ、我が国経済の活性化を図り、課題の解決や国民生活の利便向上を実現していく。



オフィス



病院



商店街



駅・空港



工場



農場



災害監視

ローカル5Gのメリット

- 「5Gのメリット」に加えて、「自営（ローカル）ならではのメリット」を組み合わせ、サービス提供していく。

5Gのメリット

- ✓ 高速・大容量
- ✓ 低遅延
- ✓ 多接続



自営（ローカル）ならではのメリット

- ✓ 高セキュリティ
- ✓ 柔軟な設計・制御
- ✓ 各エリアのお客様ニーズに応じた展開

- 農場等において、トラクター等の自動運転や映像のAI解析による収量予測等を実現し、農業法人等の収益拡大に貢献。

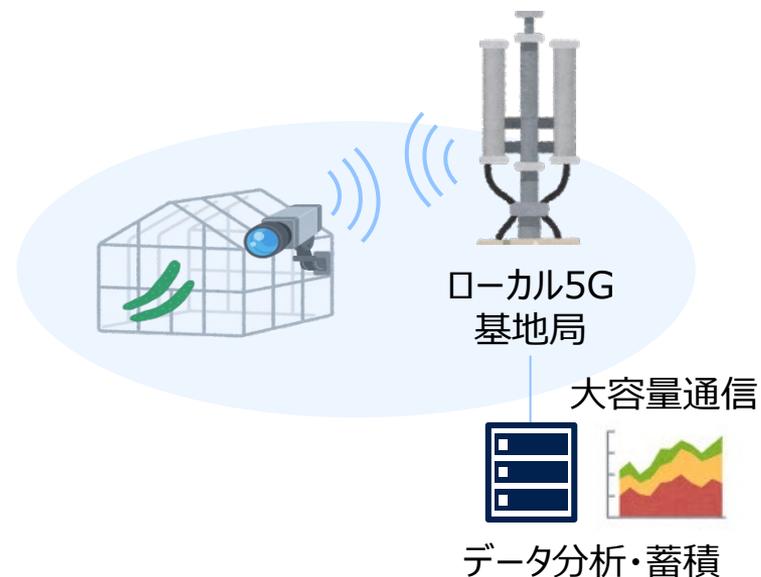
① 人手不足への対応

トラクターやドローンの自動運転を活用して農作業の負担を軽減



② 栽培ノウハウの蓄積・改善

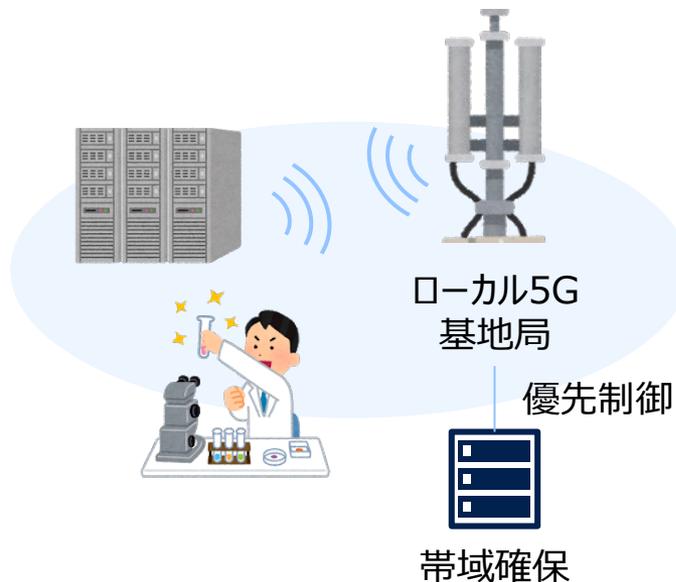
高精細な映像をAIで解析し、異常の早期発見や正確な収量予測を実現



- 安定的でセキュアなプライベートネットワークを提供し、最適な学術研究等の環境構築に貢献。

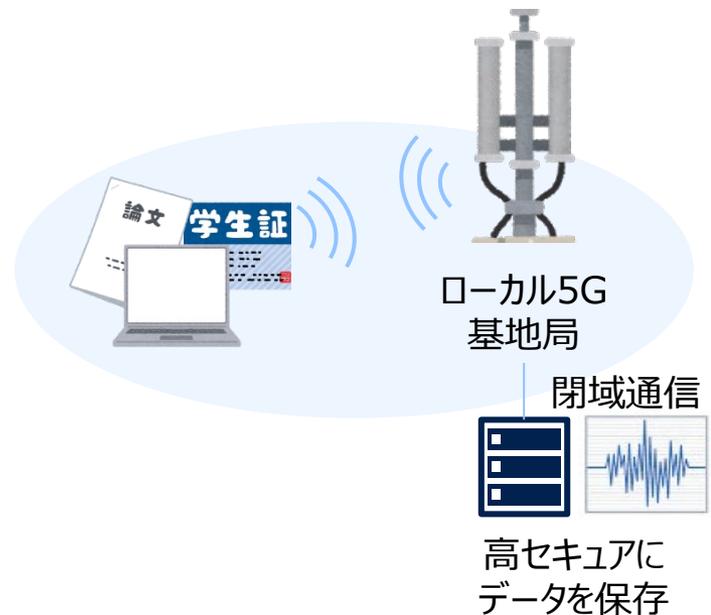
① 研究開発に必要な帯域の確保

基地局の柔軟な設置や帯域制御により
安定したプライベートネットワークを提供



② 研究データ情報等の保護

閉域で独立性の高いセキュアな
通信環境を提供



- NTT東西も、ローカル5Gならではのメリットを活用して、地域のお客様のニーズにお応えし、様々な社会課題の解決に貢献していきたいと考えており、ローカル5G免許を付与していただきたい。

ローカル5Gに係る事業者間連携に関する基本的な考え方 NTT

- ローカル5G事業者として、これまで通信事業者でなかった多様なプレイヤーが他分野から参入してくるケースが想定されるため、無線技術を持つ全国MNOが基地局構築等でそれらプレイヤーを柔軟に支援できるようにすることが有用。
- また、NTT東西や電力系事業者・CATV事業者等、これまで固定通信事業者であったプレイヤーが、ローカル5G事業者となる場合も同様、全国MNOの柔軟な支援は有用であり、ローカル5Gに係る事業者間連携は広く認められるべき。

全国MNO

基地局構築等の柔軟な支援

ローカル5G事業者

【非通信事業者（他分野からの参入）・通信事業者（固定通信事業者等）】

多様なプレイヤーの参入により、様々な産業において、
ローカル5Gを活用して新たなイノベーションを創出

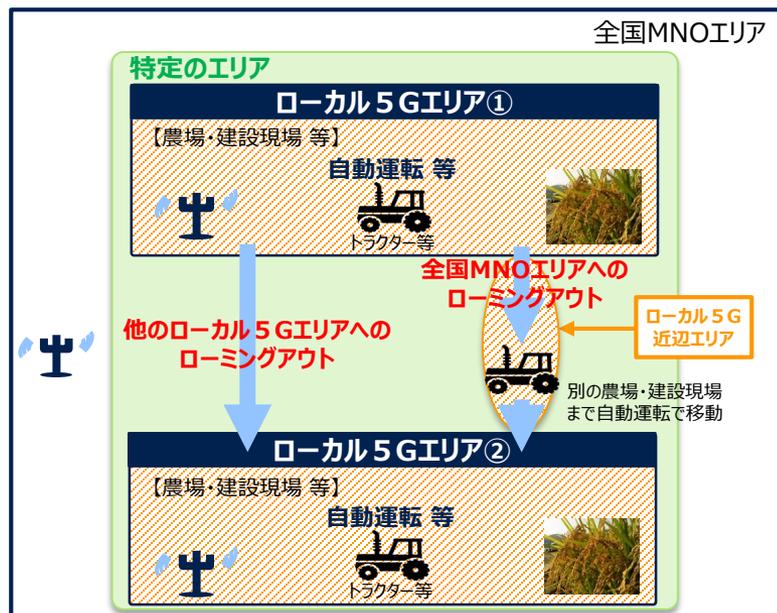
ローカル5G
サービス

社会的課題の解決・国民生活の利便向上

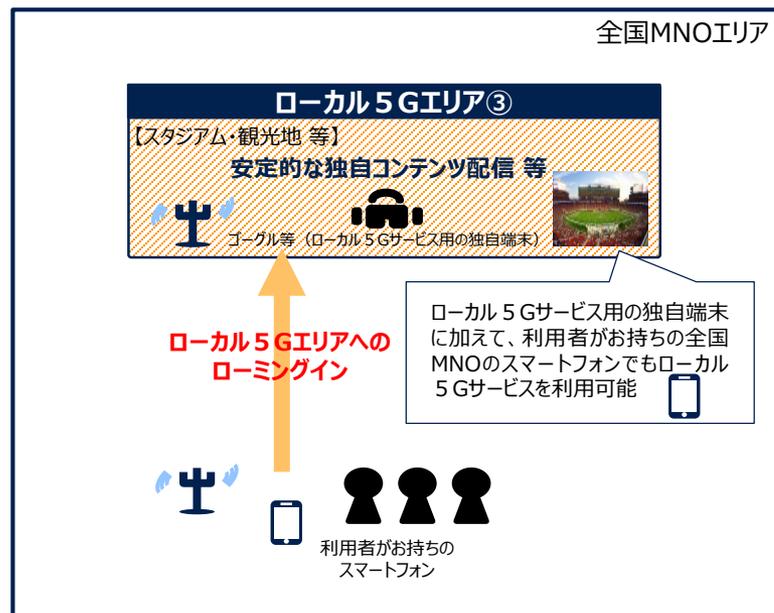
ローカル5Gサービスを補完するためのローミング等は必要NTT

- 新世代モバイル通信システム委員会報告（2019年6月18日）において、ローカル5G事業者は、「ローカル5Gのサービスを補完することを目的として、全国キャリア向け帯域を利用することは可能」とされているところ。
- ローカル5Gサービスを、近辺エリアや他のローカル5Gエリア等でもシームレスに利用したいとのニーズに応じて、ローカル5Gサービスを「補完」するためにローミング等を可能とすることは、お客様利便性の向上や多種多様な新しいニーズへの対応の観点から適切と考える。
- なお、その際、ローミング等契約については、従前どおり、民・民間で自由に契約できることとすべき。

【図1】 ローカル5Gからエリア外へのローミングアウトの例



【図2】 エリア外からローカル5Gへのローミングインの例



ローカル5Gの主旨に照らし、サービス補完範囲の 明確化が必要

- 一方、新世代モバイル通信システム委員会報告（2019年6月18日）において、全国MNOによるローカル5Gの提供については、「ローカルニーズに基づく比較的小規模な通信環境を構築するものであることから、全国MNO自らのサービスを補完することを目的として、ローカル5G帯域を利用することは、ローカル5Gの本来の主旨に反する」との整理が図られているところ。
- ローカル5Gの制度導入の主旨に照らし、全国MNOのサービス補完となるような利用形態を認めないのであれば、例えば、ローカル5G事業者が僅かな基地局設備等を設置してローミング等により全国サービスを提供する利用形態や、MVNO事業者が高トラヒックエリア等のみ自社でローカル5G網を構築し、全国サービスを補完するような利用形態についても、ローカル5Gの本来の主旨に反すると考える。
仮に、そのようなクリームスキミング的な利用形態を認めた場合、全国MNOの設備投資インセンティブが損なわれる等、設備競争が阻害されることが懸念される。
- 以上を踏まえると、ローカル5Gの制度導入にあたっては、ローカル5G事業者がローミング等により全国キャリア向け帯域を利用できる「補完」の範囲を明確化することが必要。

NTTグループにおいても、他事業者と同等の条件で ローカル5Gサービスを提供できるようにしていただきたい

- NTT東西はローカル5G事業者として、地域のお客様のニーズにお応えし、様々な社会課題の解決に貢献していくため、図1・2（本資料7ページ）のようなサービス提供を行いたいと考えており、そのためには、NTT東西に対しても全国MNOとのローミングを認めていただくことが必要。

その際、NTT東西は、法令を遵守し、全国MNOとの関係において、不当に差別的な取り扱いを行うことはない。

- NTTドコモも全国MNOとして、地域活性化に取り組もうとされている様々なローカル5G事業者と連携していく考え。

その際、NTTドコモは、法令を遵守し、ローカル5G事業者との関係において、NTT東西等に対して不当に優先的な取り扱いを行うことはない。

なお、有限希少な周波数を全国で割り当てられているという点で、NTTドコモと他の全国MNOとの間に差はないことから、ローカル5G事業者に対する不当に優先的な取り扱いの禁止に係るルールについて、他の全国MNOも同様に扱われるべき。